

ISHIKAI

~ 新しい医療 ひろがる笑顔 地域医療への貢献 ~

新年号

Vol.52

2026年1月 発行

謹
賀
新
年

地域とともに
未来へ

年頭の挨拶

地域の皆さん、そして北部の医療関係者の皆さん、あけましておめでとうございます。

2025年は皆さんにとってどのような一年だったでしょうか。当院に限らず、多くの医療機関にとって試練の年だったのではないかと思います。物価高騰や人件費の増加など、一定の報酬が収益の主体である医療界にとって厳しい状況が続きました。しかし、私たちは「ピンチはチャンス」と捉え、病院の機能強化や職員の意識改革に取り組むことができました。この基盤をもとに2026年はさらに体制整備を進めてまいります。

診療報酬はプラス改定となりましたが、依然として厳しい環境にあることは変わりません。

医療界にとって、人材の確保は今後も大きな課題です。職員がやりがいを感じ、使命感を持って

働く職場環境を整えることが重要です。そのような環境で働く人財は、期待以上の力を発揮してくれます。当院はこれからも「人の力」を中心に、ガバナンスを強化し、強い病院づくりを目指してまいります。さらに、今年1月から当院に胸部外科が開設されます。ベテランの胸部外科医が赴任し、北部地域でも肺がんや気胸・膿胸などの手術が可能になります。少しずつではありますが、一人でも多くの患者さんが地元で完結できる医療を受けられるよう、体制を整えていきます。

そして、2028年開院予定の『公立沖縄北部医療センター』では、より充実した医療提供が期待されます。しかし、新病院にとっても地域の医療機関との連携・協力は不可欠です。医療・介護・福祉に携わるすべての施設と人が、地域の医療を守り、発展させるという強い信念を共有することが大切です。地域の皆さんにとっても、安心して暮らせる医療体制を築くため、私たちは努力を続けます。今年も皆さまのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



病院長
諸喜田 林



看護部長 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。地域の皆さん、そして日々医療を支えてくださる関係機関の皆さんに心より感謝申し上げます。2025年を振り返ると、看護部長を拝命し、大きな責任を感じながらスタートした一年でした。現場に足を運び、職員一人ひとりの声を直接聞くことを心がけ、その中で率直な意見や悩み、看護への熱い思いに触れるたび、多くの学びと気づきを得ました。皆の支えがあってこそ看護部が成り立っていることを実感し、この声を大切にしながらより良い看護部を築いていきたいという思いを強くしました。医療環境が厳しさを増す中、患者さんに寄り添い、限られた時間や人員の中で最善を尽くす職員の姿が印象的でした。



看護部長
上地 佳代

また、当院では昨年に続き特定技能生を受け入れ、既存スタッフが温かく迎え丁寧に教える姿勢を見せてくれたことで、新しい仲間も安心して業務に取り組むことができ、チーム全体の協力と優しさを改めて感じました。

看護部としては、新病院開設・統合という大きな変化を前に、「今までよいのか」「これから何が必要か」を考える視点が広がり、研修参加や新人教育への意識も高まっています。忙しい中でも先輩・後輩が共に学び支え合う姿が多く見られ、成長を実感しています。

2026年に向けては、「働き続けたい職場づくり」と「看護の質のさらなる向上」を柱に、多様な働き方を尊重し、職員が安心して力を発揮できる環境を整えることで、質の高い看護につなげたいと考えています。

さらに、地域包括ケアの重要性が増す中、退院後の生活や福祉にも目を向け、地域で暮らしを支える看護師の育成に力を入れます。業務改善や教育体制の充実を進め、変化する医療ニーズに柔軟に対応できる看護部を目指します。私たちはこれからも「この地域で暮らし続けたい」「ここで治療を受けてよかった」と感じていただける看護を目指し、新病院開院に向け、これまで大切にしてきた看護の心を引き継ぎながら、安心で質の高い医療・看護の提供に努めてまいります。

午年のごとく、しなやかに前向きに歩みを進め、地域の皆さんに信頼される看護部であり続けたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定技能外国人9名が入職しました！－共に学び・働く新体制－



入職式 記念撮影



辞令交付



研修の様子

介護現場の人材不足が続く中、当院では今年度も特定技能外国人を受け入れ、11月4日に入職式を行いました。地域医療を支える大切な仲間として、温かく迎え入れました。

式では、諸喜田院長、柴山副院長、上地看護部長から歓迎と激励の言葉が贈られ、柴山副院長より一人ひとりに辞令が手渡されました。各看護師長から記念品が手渡され、和やかな雰囲気の中で進行しました。

オリエンテーション後は、ベッドメイキングや車椅子移動、体位変換、排泄・食事介助などの実技演習を行い、12月中旬から病棟でのトライアル勤務を経て、1月に正式配属となります。



先輩からのエール

昨年入職したミャンマー出身の先輩に、後輩9名について聞きました。

「入職してくれてとても助かります。後輩たちには、ちゃんと勉強して言葉を覚えてほしい。そして、一緒に働いていきたいです」と話してくれました。

言葉も文化も異なる環境での新しい生活が始まっています。私たち職員一同、彼らが安心して働き、成長できるよう、これからも温かくサポートしていきます。

※一部内容は看護部採用サイトホームページ掲載記事を再編集しています。

最新情報はInstagramで
チェック！

看護部Instagramでは、
日常や研修の様子や
リアルを発信中
QRコードからアクセス

フォローお願いします。



hokubuishiakai_ns

令和7年度 離島地域病院実習報告

11月～2月までの期間、琉球大学医学部3年次の学生が、当院を拠点とした5日間の下記スケジュールで離島地域病院研修を行っています。医療の現場と地域の取組を実感し、離島地域医療に貢献できる医師となる将来像を描けることを目的とした実習に、学生がどのように感じ、学んだのか？第1班～4班までの感想を一部ご紹介いたします。

★ 実習スケジュール ★



**外科手術で
「安全管理」の重要性**
大動脈閉鎖不全症の手術を見学し、麻醉導入から人工心肺離脱までの流れを学びました。麻醉科医の「何も起こらないよう準備する」姿勢や、患者への丁寧な声かけが印象的でした。

**離島医療で学んだ
「総合力」と地域への思い**
伊江村診療所で応急処置や膝関節注射を学び、老人ホーム回診にも参加しました。医療の進歩と外部依存の現状を知り、地域に貢献する姿勢の大切さを実感しました。

**救急医療で学んだ
「判断力」と伝える力**
救急カンファレンスで症例検討を体験し「急変時に来てください」と伝える重要性を学びました。ABCDルールに沿った対応や、現場の連携の大切さを実感しました。

**内視鏡検査で
「高度な技術」に触れました**
消化器内科で大腸カメラやポリープ切除を見学しました。水注入や止血など繊細な手技に驚き、院長先生の両手操作やクローン病患者の回復した大腸も印象的でした。

**看護師の働き方と
「診療看護師」の役割**
看護師と共に採血やベッドバスを体験し、忙しく働く姿に感銘を受けました。診療看護師の存在を初めて知り、人手不足を補う重要な役割を担っていることを学びました

**多職種連携と
安全な医療の重要性**
手術見学で麻酔科医の準備姿勢や声かけを学び、コメディカルとの情報共有が患者安全を守ることを実感しました。検査室では分子解析技術や血液型の知識も深めました。

病院公式Instagramでは、医師や研修医など各職種の活動、イベント情報などを発信中！

QRコードから
アクセスして、
ぜひフォロー
してください。



**救急科で学んだ
地域医療の課題**
救急科で症例検討を体験し、家族背景まで考える重要性を学びました。脳波検査が北部でほぼ行えない現状や慢性疾患が多い地域特性も知り、課題を考える機会になりました。

**病理標本観察で広がる
将来の選択肢**
病理標本を観察し、診療看護師や循環器手術の見学を通じて、医師の仕事の幅広さを知りました。将来の選択肢として病理医も考えられると感じ、貴重な経験になりました

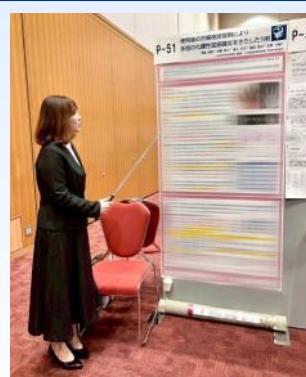
日々の積み重ねを学会へ—薬剤部の取り組み

11月28日（金）～30日（日）、福岡国際会議場で開催された第95回日本感染症学会西日本地方学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会に、呼吸器・感染症科の医師2名とともに参加しました。

医師はそれぞれ、別の症例でポスター発表と口演発表を行いました。薬剤部からは「使用後の爪楊枝誤穿刺により手指の化膿性屈筋腱炎をきたした1例」についてポスター発表を行いました。

この症例は、病棟薬剤師の日常業務や、薬剤師と抗菌薬適正支援チーム（AST）の活動が診断・治療に活かされた事例です。今後も、日々の業務のなかで得られる知見を積み重ね、考察を深め、発表へと繋げていきたいと思います。

※一部内容は薬剤師Instagram掲載記事を再編集しています。



薬剤部の
Instagramは
こちら！



hokubuishiakai.yakuzaibu

フォローお願いします。

『肛門科専門外来』を開始しました。

— お尻の悩み、まずはご相談ください。 —

これまで痔（肛門とその周辺の病気）でお困りの患者さんは外科外来で診療していましたが、「名護で痔の手術ができると思わなかった」という声を多くいただいていました。また、紹介いただくクリニックの先生方にも分かりやすいよう、このたび当院に『肛門科専門外来』を設置しました。

診療は、「大腸肛門病専門医1名」と、「ジオン注射療法（四段階注射法）施行医2名」が担当します。

痔は身近な病気です

日本人の3人に1人は痔で悩んだ経験があるといわれています。インターネット調査では、月に1~2回以上症状がある人は15%でしたが、実際に病院を受診した人はそのうち29%にとどまっています。

理由として多いのは「治療を受けるほどではない」「患部を見せるのが恥ずかしい」「人に知られたくない」「費用が心配」など。痔のために病院へ行くことをためらう方が多いのが現状です。

当院の診療実績（2024年）

2024年1月～12月に肛門疾患で新たに受診された患者さんは201人、

地域の28施設から紹介を受けました。

診察は問診と症状の確認から始まり、肛門診で状態を確認します。

診察はカーテンで仕切られた診察台で横向きになり、バスタオルを腰にかけてプライバシーに十分配慮しています。

必要に応じて患部を撮影し、画像を見ながら症状と病変の関係をご説明します。

治療について

説明だけで安心され、経過観察を希望される方も多いですが、治療を希望される場合はメリット・デメリットを丁寧に説明し、治療を行います。

外科治療を行った患者さんは100人でした。

当院で行っている治療は次のとおりです。



ジオン注射療法

内痔核に対して行う注射治療。
痛みを感じない部分なので麻酔は不要。
血液サラサラの薬も休薬不要。
日帰り治療が可能で、治療時間は約20分、
1時間の経過観察後に帰宅できます。
効果は長期間持続します。



痔核切除術

硬くなった痔核を切除します。
ジオン注射を併用し、切除範囲を少なくすることで術後の痛みや肛門狭窄を防ぎます。入院は2泊3日程度です。



裂肛

基本は保存療法ですが、繰り返す場合や肛門狭窄を伴う場合は皮膚弁移動術や皮下内括約筋切開術を行います。



痔瘻・肛門周囲腫瘍術

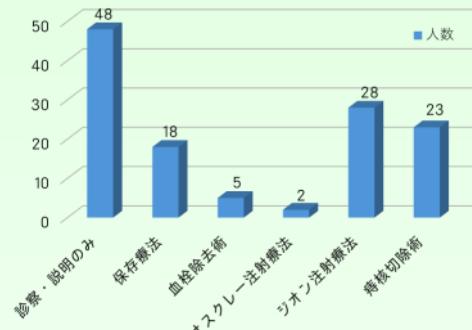
膿瘍切開排膿術、痔瘻根治術（開放術、シートン法、括約筋温存術式など）を行います。クローン病に伴う痔瘻には、アロフィセル（ダルバドストロセル）による治療も可能です。

2024年1月～12月の診療実績

肛門疾患の内訳



痔核治療の内訳



その他

直腸脱に対しては肛門からの手術（デロルメ法）や腹腔鏡下直腸固定術を行います。



大腸肛門科
野里 栄治

肛門科の診療はプライバシーに十分配慮し、診察も治療もできるだけ痛みが少なくなるよう

工夫しています。お尻のことでお困りの際は、どうぞ気軽にご相談ください。

お問い合わせ先	北部地区医師会病院 肛門科専門外来（外科外来） TEL 0980-54-1111（代表）
診療日	毎週火曜日・金曜日 午前

～編集後記～ 今回も発刊が予定より遅れてしまい、楽しみにしてくださっていた皆さまにはお待たせしました。今月からは病院ホームページでもご覧いただけるようになり、より身近に情報を届けるようになります。来年度は、もっとスピーディに、タイムリーな情報発信を目指して頑張ります！引き続きご愛読をよろしくお願いします

（北部地区医師会病院 広報部）